

令和7年度の教育活動等に対する学校評価書

令和8年2月5日

学校法人大雄学園 理事長 伊藤 正見  
 学校法人大雄学園 ふじの花こども園長 菅ヶ谷有希

- 1 園の教育目標 『心豊かな人間の育成』  
 2 本年度の重点目標 「笑顔いっぱい元気な子」  
 目指すこども像 (1)健康でたくましく伸び遊び遊ぶ子「すくすく」 (2)感謝や思いやりの子を持つ子「きらきら」「ここにこ」 (3)進んで取り組む子「いきいき」「わくわく」  
 3 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

評価対象	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価点	園としての成果や課題、改善策	評価点	意見 ★は質問
教育成果	親や子どもは園での教育活動に満足している①	A	○保育者が一人一人の園児の発達段階に応じ、生活習慣を身に付けることや、遊びを大切にすることも主体の保育教育活動を行うようにしてきた。 ○子どもの思いを受け止め心に寄り添いながら楽しい活動を行ってきた。 ○園での子どもの生活や活動の姿を保護者に話したり、家庭の様子を聴いたりして伝え合うことでコミュニケーションを取り、信頼関係を深めてきた。 ○子どもに育みたい資質能力を考慮し、保護者から期待される園を目指す。	A	・1年を振り返り成果と課題を職員以外の方と意見交換をする良い機会と感じる。 ・子どもの元気な挨拶を聞くことができた良かった。寒くても外で元気に遊んでいる姿を見てたくましさを感じた。子どもを指導している保育士も笑顔いっぱいだった。 ・保護者も子どもも笑顔で行事に参加してとても良かった。 ・朝早くから勤務している保育士さんたちの環境が少しでも良くなって欲しい。 ・先生方が笑顔で保育できる環境整備を心掛けて欲しい。
	職員は親や子どもに信頼されている②				
教育課程	教育目標に沿った教育③	A	○重点目標「笑顔いっぱい元気な子」達成のため、目指すこども像を「すくすく」「きらきら」「ここにこ」「わくわく」等、こどもや保護者も分かるようにした。そして、教職員が教育目標や重点目標を共通理解し、こども主体の保育教育活動になるよう、発達段階に応じて楽しく行事に取り組んできた。 ○保護者からは、行事の感想として「子供の成長を感じる事ができとても幸せな時間を過ごせた」「家庭では見られない子どもの楽しそうな姿が拝見出来て良かった」等があり、園の方針や職員の取り組みを評価する方が多かった。	A	・行事を見せていただき、園の保育に満足している方が多いのもよく分かる。 ・集団行動になじめない子も、1人の先生が寄り添い優しく指導していた。 ・集団には入れない子に先生が寄り添い、輪の中に入れてくれるよう配慮している姿を見た。子どもが安心してして過ごすことができると感じた。 ・スキンシップを大切にすることを大切にしたい。勤務している児童クラブでは、小3ぐらいまで支援員の膝にすぐ座ってくる。子に接していると愛情に飢えているように感じる。小1ギャップも生まれるので園と小学校の連携強化は歓迎したい。
	一人一人を大切に、発達年齢に応じた保育⑤				
	園行事⑩				
教育環境	保育室、園庭、遊具等、園での教育環境④	B	○月1回の防災訓練では、園庭への避難だけでなく高洲中への避難も体験させた。また、消火訓練も職員や年長の子どもが毎回取り組んできた。 ○園舎老朽化による施設整備は改善の必要を感じる。本年は、1歳児保育室フロアリフト化、園舎の外壁、屋根の全面塗装、ブロッコ補修等の改修をしてきた。今後も見直しを持ち環境整備と収納場所の確保を考えていきたい。 ○職員の手による安全対策マップの作成や、安全な遊具の使い方の指導を徹底し、子どもの安全意識向上に繋げた。引き続き、安全指導を継続していく。	B	・改善すべき、できる所は改善してしているのは評価できる。 ・古い園舎ですが怪我のない事を一番に望む。・門の鍵を高く開閉し易くて欲しい。 ・近所の方に園の維持を手伝っていただいたり、園のネーミングライツで企業さんに支援してもらっても良いと思う。 ★安全・危険を感じることはあるか。地震の対応はどのようにしているか。 ・不審者対応、避難訓練はしているが、外部の人がフェンスを乗り越え簡単に侵入する不安はある。早朝、夕方等限られた職員で不審者対応や地震対応は課題である。
	安全な環境について配慮⑧				
保護者対応	親や子どもに信頼されている②	A	○パステル(SNS)を使い園だよりやクラスだよりの送信や、掲示板やHPの写真掲載を通して通して、園での子どもの様子を丁寧に知らせた。 ○子どもの怪我等への保護者対応が適切にできるよう、保護者への早い対応を心がけると共に子どもに関わる情報は職員間で状況や情報を共有してきた。 ○保護者との日々の会話や個別面談等、直接顔を合わせてのコミュニケーションを大切にできた。特に行事に取り組む過程の日々の表れを伝え続けた。保護者から「子どもたちが楽しそうに取り組んでいました。こども園でいろいろ体験をさせていただき、本当にありがたいです。」との感謝の言葉を頂いた。	A	・先生方のできることでできないことを具体的に示めしたらどうか。(難しい)が保育はサービス業ではなく教育施設であることを周知する。 ・子どもと接する時間が長い保育士が、成長の様子を親に伝えるよう努力している。 ★産休・育休で先生が抜けるが、どのように回しているのか。 ・産休の職員が出た時は、姉妹園(青島・志太)から補う体制をとり保育に支障のないようにしている。急な配置換えでストレスを抱える職員もいるかもしれない。 ・産休で一時的に抜け大変になるが、長い目で見ると出産・育児の経験は復帰して保育に生きると考えている。子どもの心の安定を大切に保育に繋がると考える。
	子どもの様子を丁寧に伝えている⑥				
連携	家庭や地域と連携した教育活動を行っている⑦	B	○夏祭り、運動会を親子で楽しめるゲームや種目を体験できるようにした。 ○教育部は一斉公開日を設け集団の中の姿見ていただき、保育部は個別の保育参加を実施している。家庭とは違う姿を参観することで子ども理解を深めた。 ○地域の方の力を借りサツマイモの苗植え、収穫を体験をさせていただいた。 ○高洲小、高南小に入学する園児と1年生が、楽しく交流活動を行ない小学校生活を体験できた。地区交流センターの「ふれあい祭り」に年中児が参加。 ○職員も高洲地区保幼小中合同研修会に参加し授業等を参観して理解を深めた。	A	・昨年に比べて、小学校や地域とこども園の交流が増加したのが分かった。 ・昨年、「たかす すくすく プログラム」を提案されたが、今年実践の成果を聞くことができ感謝している。保育士が小学校の研修会に参加、小学校教諭が園を参観する回数を増やし連携を強化。スムーズな接続をし年長園児の不安軽減に繋げたい。 ・中2、小6が家庭科授業で園児と交流し貴重な経験になったが、保護者への周知が弱かったかもしれない。地域との交流は増えているので、保護者をどのようにして巻き込み保育活動を進めていくのが課題であると感じる。全職員で考えていきたい。
食育	給食や栽培など、食育が適切に行われている⑨	A	○野菜の栽培を体験し、収穫物を給食で頂くなど目に見える形で実施できた。 ○午後の自由遊びの時、自主的に玉葱の皮をむく等、野菜に親しむ姿が見られた。 ○給食職員と子どもと季節の野菜カレー、スイートポテト等を調理する機会を設けた。このような活動を通して園児が食に対する関心や理解が深まった。 ○健康に配慮し工夫された給食のメニューは保護者、職員、子どもの評判も良い。今後も周囲の声に耳を傾け、食べることの楽しさを味わうようにしたい。	A	・離乳食、アレルギーの子に配慮するなどきめ細かに対応している事が分かった。 ・食品のメニューが勤務している社員食堂よりも断然良く美味しそうである。機会があれば試食会でもやってくれたら有料でも参加したい。 ・農家の減少で農業体験が少ないので、農園を借りてのサツマイモ収穫、園の畑の野菜栽培は大切にしたい。 ・今後も家庭、地域と連携し子どもの食についての意識を高めていきたい。

評価点 A 十分に成果があった B 成果があった C 少し成果があった D 成果がなかった